

# 主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

地理的分野専門委員長 養老町立高田中学校 長堀 真人

## 1 はじめに（昨年度までの成果をつなぐ）

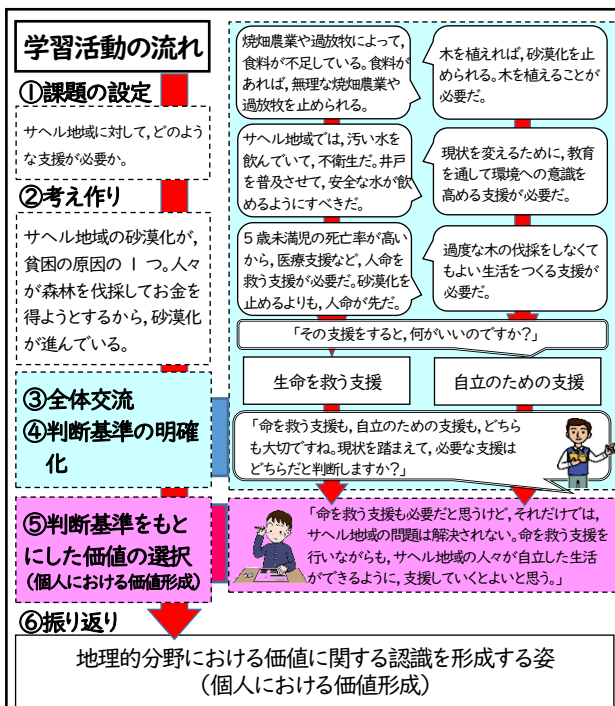
昨年度の研究のまとめと今後の方向性は、以下の通りである。

- ・ 事実に関する認識を獲得する授業の確実な実施  
→ 事実に関する認識の獲得につながる技能（地図帳、統計資料の使い方、雨温図、主題図、グラフの読み取り方など）の定着を図る。指導しきる。生徒を育てる。
- ・ 「事実に関する認識を獲得する授業」から、「価値に関する認識を形成する授業」につながり  
→ 生徒が「どこで、何が、どのように、どれくらい。」に着目し、説明できるようになることで、自分の価値に関する認識を形成することができる。
- ・ 「価値に関する認識を形成する授業」の実践  
→ 「南アメリカ州（開発と環境）」「地域の在り方」の単元で、「価値に関する認識を形成する授業」の授業モデルに基づいて実践する。その他の単元でも、積極的に実践していく。

価値に関する認識を形成するためには、その授業までに、事実に関する認識を十分に獲得し、地理的な見方・考え方や、地図や統計資料などの読み取りの技能の習得も必要不可欠である。価値に関する認識を形成する授業をするために、事実に関する認識を獲得する授業の充実も求めていく。

### （2）授業モデル

各授業のモデル（全体論を参照）の中でも、地理的分野の「価値に認識を形成する授業」については、以下のように考えている。【昨年度の実践を簡素化したもの】



## 2 研究内容

### (1) <全体論参照>

### (2) 社会の形成に参画する力を育てるための指導方法の明確化

- ① 事実に関する認識を獲得する授業のモデルの定着・発展
- ② 価値に関する認識を形成する授業のモデルの構想・提案

### (1) 研究内容(2)-①について

「事実に関する認識を獲得する授業」を構想する際、以下の点に重点を置く。

### ◎ 岐中社における事実に関する認識（社会認識）の定義付け

→ 指導案作成の際（授業を仕組む際）、本時における事実に関する認識が何かを明記する。

本時における事実に関する認識（例）

→ サヘル地域で砂漠化が進行している理由は、経済的貧しさを脱却するために行った人口増加と、食料・経済力を得るための開発が原因である。

### ◎ 一単位時間における【認識を深める場（広がり、深まり）】における手立て

→ 認識を深める場を設定し、「どんな手立てで、どんな姿を目指すのか」を、指導案の「指導・援助」の欄に明記する。

獲得した認識を深化する（例）

「サヘル地域の砂漠化をこのままにしておいてよいのか」と問うことで、砂漠化の進行を放置していくことで更に生活が貧しくなってしまうことを認識させる。

### (2) 研究内容(2)-②について

「価値に関する認識を形成する授業」を構想する際、以下の点に重点を置く。

### ◎ 岐中社における価値に関する認識の定義付け

→ 指導案作成の際（授業を仕組む際）、本時における価値に関する認識が何かを明記する。

本時における価値に関する認識（例）

→ サヘル地域に対して必要な支援には、「生命を救う支援」と「自立のための支援」がある。（←個人の価値形成）

### ◎ 価値に関する認識を形成する思考過程の明確化

→ 課題の設定、立場の分析、意見の対立、生徒がたどり着く結論とその根拠など、生徒の思考を明確にする。

意見をもとに、判断基準を位置付ける（例）

→ 「私は、自立に向けた支援が必要だと思います。サヘル地域の砂漠化の原因には、過伐採や過放牧、焼畑農業があります。どれだけお金やものの支援をしても、これらの原因が解決されなければ、砂漠化が解決されないからです。」